株式会社スギタの歴史

■沿革

当社は 1610（慶長 15）年；全国企業 the oldest 13th,帝国バンク調べ）に鋳造業を創業されたと云われておりますが、それ以前のことについては定かでない。

近世より多くの梵鐘・鳥居や燈篭(京都御所内）をはじめ、朝廷の庇護の下、御鋳物師とし農機具や生活用品、製造販売しておりました。例えば、古くは五位堂銭、1970 年代前半まで篤農家に愛用された文化財的な鋳鉄製備中、鍬と農具の販売も続けられていた。
その他、香芝町史の鋳物工業（P405-417)、民家（P813-818)、杉田仁作住宅 P825-831)がおよび同史料編の五位堂（P204-248)（昭和５１年４月２９日発行）で紹介されています。

尚、**株式会社杉田鋳造所**（株式会社組織 1949 年）が旧社名です。

1981(昭和 56)年元旦、自宅全焼（両親である杉田仁作香芝町長夫妻死去、工場も一部焼失）し、工場再建するも 鋳造部門の長年の工業用製品への転換遅れと構造不況業種でもあり昭和 59 年(1984 年）にその 4 世紀近くの歴史ある鋳造業より完全に撤退した。新しく教育、生活サービス事業に転換しております。

社名も**株式会社スギタ**（1994 年）と変更され、現在は、進学塾（1981 年)・パソコンスクール（1998 年)・ギャラリー（2000 年)・インターネットサービスなどの文化的部門とトランクルーム（1997 年)・駐車場・マンション管理などの不動産部門を主とするサービス業務を行なっております。

長い歴史に貫かれた「誠実・責任・公正」からの信頼感が何よりと思っております。職業倫理を守り、地域社会への貢献のため今後とも２１世紀にふさわしい仕事を目指し、皆さまにご利用戴けますよう、研鑽を重ね、より質の高いサービスをご提供してまいります。

（年表）

1610 年　鋳造業を創業（全国企業 the oldest13th,帝国バンク調べ） 梵鐘等を始め農機具の販路を国外へも拡げる。第 2 次世界大戦中から鋳鉄製工業部品の製造

1949 年　杉田鋳造所を株式会社杉田鋳造所に法人化(社長:杉田仁作)する。

1982 年　先代社長逝去(1982 年元旦事故死)以降は、教育・サービス事業を展開する。鋳造工場新設、自硬性砂プラント等導入。進学塾杉田ゼミ開講（当初は、国・私立中学受験専門塾）

1985 年　約 4 世紀続いた鋳造業を廃業する。

1994 年　(株)杉田鋳造所から(株)スギタへ社名変更

1995 年　鋳造工場建屋内を全面的にトランクルームへ改装（現建屋）

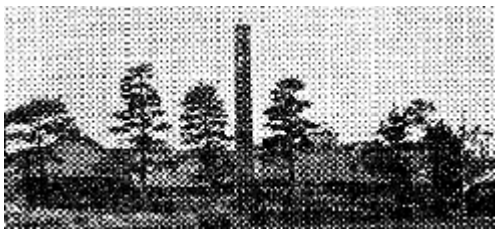
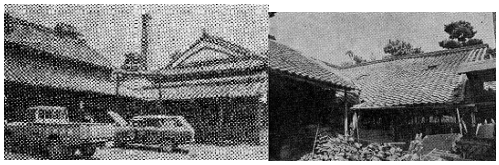
1998 年　教育用 ICT を始める。パソコンスクール開設、不動産管理部門を充実する。

2001 年　貸画廊（Gallery Jinn）を開店する。

2015 年　学習塾、パソコンスクールとも個別指導とし塾はオンライン授業を始める。

2021 年　コロナ対策のため、授業形態を全面的に個別対応とする。

■旧株式会社杉田鋳造所（外観）

	
旧鋳造工場/煙突がある（東側から）六本松として地元では親しまれていた。1975年撮影（香芝町史より）	旧鋳物工場別棟南側より撮る1983年老朽化により解体する1975年撮影（香芝町史より）
	
旧(株)杉田鋳造所（南東側正面口）と鋳造工場入口	シンボルの煉瓦製煙突（東側）取壊作業（2007 年 2 月）

■歴史に残る鋳物製品

十二社神社の鋳物鳥居:香芝市五位堂４丁目 香芝市指定文化財(平成 7 年度) (2023 年 3 月撮影)	十二社神社の鳥居左柱と右柱 御鋳物師杉田越前・藤原美信が奉納
近世、鋳物師が活躍し、鳥居に天保十年（１８３９年、禁裏鋳物師杉田美信）の銘がありますが、今の鳥居の一部は、昭和53年に旧鳥居から型取りし左柱の一部は補修されました。杉田鋳造所の先祖が寄進されたもので代々の子孫において補修されてきました。	

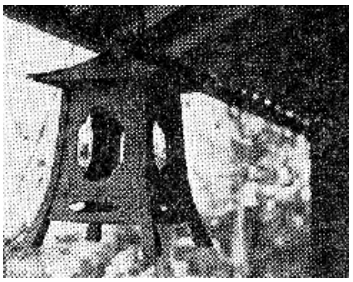
（注）補修前の左柱の一部は、現在の杉田邸の前庭で保存されている。

月見燈籠(2000 年撮影)	常夜灯（2000 年撮影）

鋳鉄製燈籠

(3 つの燈籠を一つに合体させた燈籠)

（京都御所への献上した燈籠は京都御所でご覧ください）



釣燈籠（上）（京都御所への献上品）

（本写真の釣燈籠は不良品）

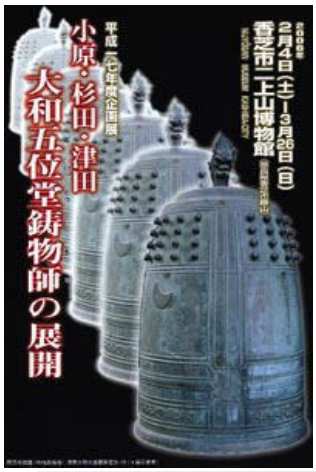
釣鐘・屋根瓦・鋳鉄製用水槽

左より釣鐘・家紋の屋根瓦と工場屋根瓦・用水槽

十二社神社の鳥居：左柱の取替前部分(手前左)、燈籠（中央)、月見燈籠（奥左）（杉田邸前庭:2023 年 3 月撮影）

■展覧会

（開催：2005 年(平成 17 年)2 月 4 日～3 月 28 日）



長年、地元、五位堂小学校の児童を対象に地域の社会見学の授業の一つとして鋳物工場の「銑鉄の歴史から銑鉄鋳造の製造工程」の見学説明を行っておりました。
縁あって、地場産業である「大和五位堂鋳物師の展開」にご協力、出品いたしました。

平成17年度冬季企画展

小原・杉田・津田

－大和五位堂鋳物師の展開－

香芝市五位堂は、かつて鋳物産業が栄えた地として広く知られるところである。鍋釜や農具、梵鐘などの作品は、損傷による廃棄や戦時中の供出や亡失などで残り少ない。さらに近年の産業構造の変化により、鋳物産業が盛んであったことさえ、人びとの脳裏から忘れ去られようとしている。このような状況を憂い、本市教育委員会（二上山博物館）では平成14年度から３ヶ年継続事業として、県内に残る五位堂鋳物師遺品文化財調査を実施した。本企画展は、これらの調査成果をもとに、五位堂鋳物師３家（小原・杉田・津田）の性格を明らかにし、またこの地で栄えた鋳物産業を広く周知する目的で開催する。

釣鐘之図　津田家文書

刑部少輔朱印状　享保15（1730）年　小原家文書

（五位堂鋳物師）

五位堂鋳物師は16世紀末から17世紀初頭に台頭してきた。初期を飾る話として「国家安康」で有名な慶長19（1614）年の京都方広寺大仏殿の梵鐘鋳造がある。鐘銘には、京都三条釜座の名護屋三昌が冶工となっているが、その脇棟梁として各地の鋳物師11人が協力している。その中に五位堂の津田五郎兵衛が参加し「藤原求次周防少掾」を賜っている。五位堂で操業した鋳物師は『諸国鋳物師文化以前名前写』によると「葛下郡五位堂村　周防少掾居都宇陀大工　杉田六兵衛　大和大目高市大工　津田五郎兵衛　石見掾吉野大工　小原善次郎」の3名がみえる。3家には、真継家が発給した「鋳物師職許状」や「口宣案」、「蔵人所牒」など、鋳物師職を保障する文書が残されており、他の真継家配下の鋳物師と同じく、鍋釜や農具を製作するかたわら、各地へ出向いて梵鐘を鋳造していたと思われる。

主な展示品　出品総数180点（すべて一般初公開）

●小原家文書（市指定文化財）●津田家文書（市指定文化財）
●杉田家鋳鉄燈籠、鋳造所関係資料

企画展記念講演会

3月5日（日） 14:00～16:00
（開場13時）

演題「大和五位堂鋳物師の展開」
講師　浦西　勉氏・奈良県教育委員会文化財保存課

■会場：香芝市ふたかみ文化センター２階・第１～３会議室
定員：先着80名（事前申込み不要）
聴講料：無料（当日発行の博物館特別観覧券が必要です。）

市指定第２９号

民俗文化財（有形民俗文化財）

□五位堂鋳物師関係資料　杉田家鋳造用具・製品　１１２点

内訳　鋳造用具５３点（ふるい５点ほか４８点）　　鋳造製品５９点（又鍬３点ほか５６点）

（データ）

指定年月日（号数）：平成１９年３月２３日（市指定第２９号）
時　代：明治～昭和時代（推定）
所在地：香芝市藤山一丁目　香芝市二上山博物館
備　考：展示は不定期

概要

本資料は、大和五位堂鋳物師三家（小原・杉田・津田）のうち、杉田家が経営していた杉田鋳造所の鋳造用具・製品の一部である。昭和 56 年１月、杉田家母屋の火災により、鋳造所も類焼を被り、のち昭和 59 年に廃業された。本資料は、その際、枚方市教育委員会が研究資料として保管されたもので、その後、杉田家に返却され、平成 18 年４月、香芝市に一括寄贈を受けた。なお、杉田家鋳造資料は、日本産業技術学会に寄贈された別の資料群がある。

五位堂鋳物師は、鍋釜や農具を生産するかたわら、各地に出職して梵鐘を鋳造していた。県内に 88 口以上残されていたが、戦時中の供出や破損による廃棄等で半分以下になっている。主な製品はやはり日用品の鍋釜や農具類である。とくに五位堂鍋、五位堂ビッチュウ（備中）は五位堂ブランドとして定着していたようである。近代以降は三本鍬・平鍬の製造が多く、昭和 25（1950）年頃までがピークで、年間 3,000 個以上生産していた。

鋳物生産は、大正～昭和時代初期にかけて量産に適した製法等が導入されて、近代的鋳物工場への脱却が図られ、戦後は機械鋳物（工業部品）に重点が置かれる。本資料は、古来の伝統的工法である真土型法（惣型法）で鋳造されている。かつてこの地域で栄えた鋳物産業史を研究するうえで、貴重な資料である。

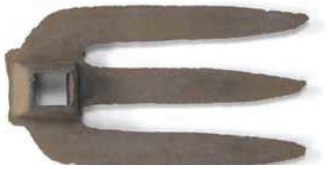
焼鍋

煎鍋

足口付鍋

足付鍋

鍬


備中鍬

平備中鍬

又鍬

取鍋

杓

挽板

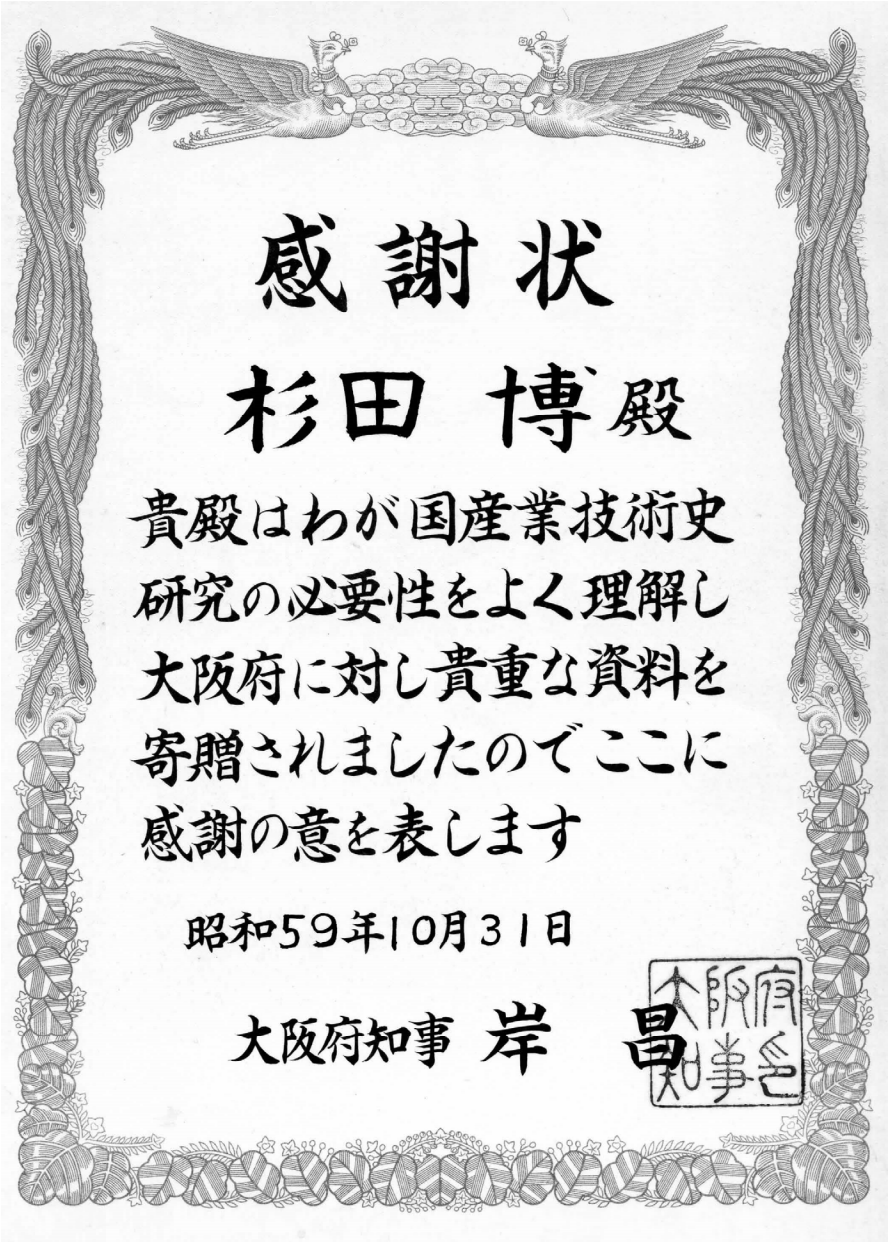
＊縮尺不同

■その他

●国立産業博物館（幻の博物館）

近代の産業の発展の歴史的な資料展示品の一つとして大阪府からの要請に基づき、(株)杉田鋳造所が所蔵している、木製の天井クレーン（一基）を贈呈させて頂きましたが、残念ながら理由は分かりませんが、国立産業博物館（仮称）の建設は頓挫してしまい写真の天井クレーンは現在、何処に保存されているか不明であります。

その時の感謝状:1984 年（昭和 59 年 10 月 31 日）



感謝状

杉田 博殿

貴殿はわが国産業技術史
研究の必要性をよく理解し
大阪府に対し貴重な資料を
寄贈されましたのでここに
感謝の意を表します

昭和59年10月31日

大阪府知事 岸 昌

URL:
http://www.sanhaku.com/index.php?option=com_content&view=article&id=53&Itemid=41

本サイトについて

本サイトは、大阪万博の跡地に建てられる予定だった「国立産業技術史博物館」を記録に残すべく、2009年5月に立ち上げたものです。「国立産業技術史博物館」とは、文字通り、産業立国ニッポンの技術の歴史を保存するため、大阪府などが誘致活動をしていた国立の博物館です。1970年代後半から計画され、30年以上にわたって貴重な資料が集められてきました。

ところが、2009年3月、予算難のために2万3000点以上の資料がすべて廃棄処分になってしまい ました。
具体的な収蔵物は別項に譲りますが、一部を紹介すると以下のようになります。

●江戸時代の木製クレーン
江戸時代末期、鋳物作りで使われた木製クレーン。奈良の大仏を鋳造した子孫の家に残っていたもので、世界唯一とされる。長さ約６メートルで、人力で１トン近いものが動かせました。

●大砲工場の工作機械
大阪の砲兵工廠（大砲などの工場）で使われた工作機械。陸海軍が欧米から大量に買い付けた機械をモデルに、国産が作られていったのです。

●戦前のクギ製造機
杉や竹の弾力を利用した釘の製造器。針金を通してハンドルを回すと、大きな音がして完成する。

●関西電力の火力発電設備
約70万キロワットという国産初の巨大発電機。昭和初期に稼働を始め、関西の電力需要の３分の２をまかなった関西電力尼崎第１、第２発電所の設備。

●クレヨン製造器
子供の頃お世話になったサクラクレパスの製造機械。３つのローラーが大理石で出来ていて、ロウを成型するときに温度を下げてくれる。

●英文活字製造器
毎日新聞社が使っていた英文活字の製造器。わざわざ鉛を溶かし込んで文字を作ったのです。

●宇治茶の製茶機械
従来、手もみで作っていたお茶の、初めて作られた機械揉み機。お茶をぐるぐるまわして蒸しながら荒揉みするのです。

これら貴重な遺産のうち、いくつかはよその博物館などに移管されましたが、ほとんどがスクラップになってしまいました。そこで、バーチャルながら、その記録を残そうと思ったわけです。

その後、経済情勢の悪化にともない、企業博物館などの閉鎖が相次ぎました。　そこで、そうした閉鎖博物館の遺品も含め、ネット上に再現していくことにしました。

いうまでもなく博物館にはいろいろな種類がありますが、基本的には、産業や技術系のものを中心に再現していく予定です。
本サイトは 「探検コム」 という個人サイトから派生したもので、あくまでサブ的な位置づけです。しかし、探検コムのデータが膨大になりすぎ、ちょっと収拾がつかなくなってきたので、技術史に関する部分をまとめる意味合いもあって独立させました。

もちろん、独立させたぶん経費もかかるので、そのうち消滅してしまうかもしれません。その場合は、データ自体は探検コムの方に移管しますのでご安心を。
なお、僕自身は機械や技術の専門家ではないので、データに関する間違いがかなり多いのではないかと危惧しています。間違いや新情報などがありましたら、ぜひご教授ください。みんなの知恵で、充実したサイトに育てたいと思っています。

●江戸時代の木製クレーン

江戸時代末期、鋳物作りで使われた木製クレーン。奈良の大仏を鋳造した子孫の家に残っていたもので、世界唯一とされる。長さ約６メートルで、人力で１トン近いものが動かせました。

木製クレーン

杉田鋳造所の旧蔵資料

・江戸から戦後まで文書約２万点（うち江戸時代のもの 60 点）
・木や土や鉄でできている生産用具、製品約 400 点（うち江戸時代のもの 100 点）
（1984 年寄贈）

奥にいる人物と比べるとクレーンの大きさがわかると思います

反対側から撮影

特筆すべきは、長さ約 5.8 メートル、幅約 1.85 メートルの木製天井走行型クレーンで、江戸時代末期のもの。

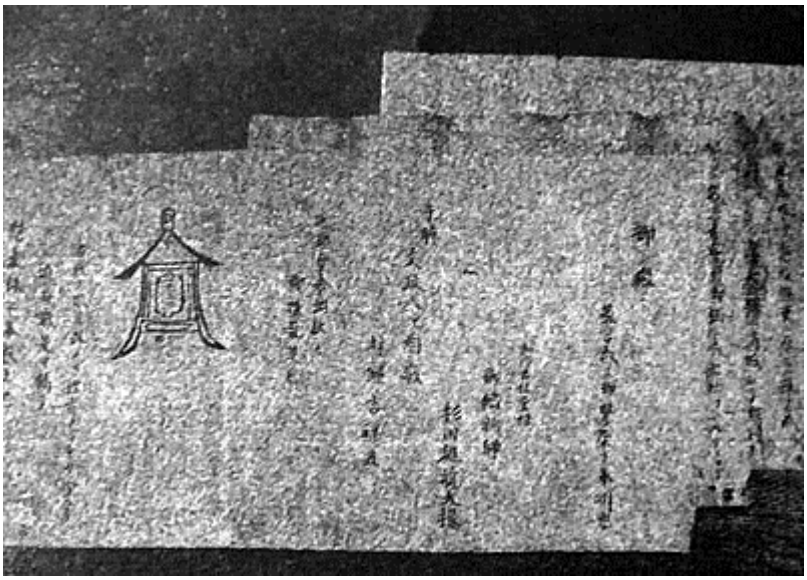
簡単に構造を説明すると、長方形の移動台が、輪軸（1 本の巨大な木）や動滑車を備えた 4 点吊りの巻き上げ機を載せて工場の梁の上を移動したのです。固定式はけっこう残存してるようですが、前後左右に動くものはおそらく世界唯一（通称「ろくろ」）。

どうやって使われたのかというと、寺の鐘などを鋳造するとき、何トンもある鋳物を土の中から引き上げて前後左右に動かすわけです。今でこそ機械式のクレーンがありますが、当時は当然ながら人力です。人はクレーンの下にいてロープでひっぱってゴロゴロと動かします。移動には最低でも 16 人必要でした。

このクレーンは奈良県香芝町（当時）の町長さんの家（杉田家）にあったもの。杉田家は奈良の大仏を鋳造した棟梁の１人までさかのぼる歴史的な家系で、「五位堂鋳物師」３家のうちの１つとして有名。国内では、梵鐘を作れるのは杉田家しかなかったそうです。そのため、資料には梵鐘につける仏像レリーフの型やヘラなども大量にありました。

天井から吊す道具

杉田家は近世以降、鍋、釜、風呂桶、スキなどの日用品や農具を中心に製造を行い、戦前はアジア各地に輸出されていました。資料の多くは香芝市等の博物館に移管されました。



こちらは 2 万点の文書資料の一部。エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）に移管。

（写真は「産業技術史資料収蔵品一覧（補訂版）」より転載しました）

■代表取締役社長の略歴

1963年　大阪府立北野高等学校卒業
1964年　大阪府立大学（現大阪公立大学）工学部電気工学科卒業
1964年　日立造船(株)陸機設計所電機計装部入社
　　ブラジル国ウジミナス製鉄所第二期拡張建設　電機計装のスーパーバイザー等を務める
1981年4月（株)杉田鋳造所入社　現在：代表取締役社長

(公職)
1986-2004年　奈良県警察少年補導員
1979-80年　五位堂小学校PTA会長
1992-2004年　香芝市教育委員会委員
2004年-現在　公益財団法人奥村奨学会
2005-06年度　奈良県進学塾連合協議会会長

(賞罰)
1982年2月　紺綬褒章を受賞

(ロータリークラブ歴)
1982年-現在　大和高田RC/日本ロータリーＥクラブ2650　会長等

編集：2023年3月　杉田 博